

日本からのシニア留学生

5月28日 火曜日 天気は晴れが続く。

通常の授業日だが、夕刻から都心の民主広場に出かける。上級クラスに所属していた厚川さんの帰国を祝う会があった。そろそろ学期末が近づいて来る頃、ここ数年大連にあって中国語学習にいそしんでいた厚川さんがこの夏で切り上げ日本に帰ると言う。これまで厚川さんのことは知っていても、話す機会もなく、この宴会は知り合って日の浅い私のようなメンバーも集っていた。特に、私の隣の稲垣さんと木下さんは、この5月だけの短期留学組。どうしても、厚川さんと話すと言うよりも、日本での生活を覚えて、家族の事情とかの話になった。この三人、共通するのは親ばかりで、家族自慢をするタイプ。子どもの自慢で盛り上がってしまった。

自慢できない我が家の話しは脇に置いて、稲垣さんの話は出身地で現在もそこに住む愛知県と、さいたま市の話し。何でも大学生の時、三河安城から浦和に出て来たとか。埼玉大学教育学部で教員免許のための単位を取り卒業。故郷の愛知県に帰って長く小学校の教員をしていたとか。しかし、母親の介護で中途退職。十年近くそうした日々が続き、母の死をもって一区切りついたので、関心をもっていた中国語学習の一手段として短期留学に参加したのだとか。母として育て上げた娘が自分と同じ道を歩み、埼玉に出て来てこれもまた埼玉大学で学んだとか。この日も外でウォーキングをして来たのか、ジョッキのビールをおいしそうに飲んでいた。

木下さんは栃木県の出身。理系の高等専門学校を出て、技術者としてメーカーに入り、アメリカなど海外赴任も長かったそう。そちらで育ったお子さんも、いわゆる難関大学に入って、社会人となっているとか。確か、中国にも赴任の経験があって、それがきっかけで中国語を学ぼうとしたとか……。定年後の現在、日光市の会社につとめておられ、今回、長期休暇をとって大連に来たそう。掲載している写真は、その木下さんから送ってもらったもの。私にとって貴重な経験だった留学だが、お二人にとってもそれは同じだったろう。

ところで写真に写る黒ジャケットの野口先生だが、我々の学ぶ大学に日本語科があることは、大連日記からの13で取り上げた。その日本語科の中心の先生が野口氏。たしか、この大学に在籍して数年のキャリアがあるとか聞いた。先生の宿舍も、私が宿としていた国際教育学院の寮が並ぶ一画にある教職員宿舍だった。中に入ることはなかったが、一人では広い位の環境だと話していた。

若い人はともかく、ここ大連の大学に通うシニアはそれなりの数がいた。遼寧師範大学で10人前後といったところか。別の機会に誘われたこともあったが、

都合悪く行くことができなかった。この厚川さんの帰国をサカナにしての集まりは、嬉しかった。

野口さんの話によれば、この店は日本人ビジネスマンが多く勤める地区にあってなかなか評判のいい店だとか。日本人が恋しくなる、サンマの塩焼きやシシャモなど、暫く食べることのなかった懐かしい味に舌鼓を打った。酒に弱い私だが、青島ビールがあんなにライトだなんて知らなかった。カウンターの奥には愛想のよいお姉さんがいて、流ちょうな日本語で話しかけてくる。どこで日本語を？と聞くと小さい頃から日本製アニメを見て育った中国版新人類の一員だとか。日本製アニメは恐るべし！と言った所か？



日本料理屋「味吉」で 左から筆者、稲垣、木下、厚川、松岡、そして右上に野口先生

この民主広場界隈が日本人のビジネスマンの勤務地だったように、定年後に中国語学習を志し、この地に舞い戻って来る日本人のシニア留学生も多いとか。前に紹介した中島さんもそうだったが、この人は結局日本での用事を済ませて戻るはずが、我々の所には現れなかった。しかしその他にも、いろいろな方たちに出会うことになった。そしてあれから二年、皆さんはどうしておられるやら・・・。